

◆最優秀作品賞◆

みんなが持つてるえがおのたね

北川辺東小学校4年 中村 ひとみ

私は、「思いやり」を感じたことがあります。それは、私が「松葉づえ」をしたときです。みんなが私を心配してくれて、こまっっているとき、助けてくれました。そして、私の松葉づえは、すぐにいらなくなりました。みんなの、「思いやり」があったからだと思います。その時、わたしは「みんなが持っている物、それは思いやり。」と気づいたのです。

思いやりって、まほうのようなものだと思います。なぜなら、思いやりは思いやりをした人も、もらった人も見た人も、幸せな気持ちになります。みんながえがおになるということなんです。

思いやりって、えがおのたねだと思います。なぜなら、すてきなえがおをたくさんつくるからです。

思いやりって、みんなが持っていると思います。だれにだって、心のどこかに「思いやり」があると思います。たとえば小さなことだって、あい手にとっては思いや

りって思えたり、あるいはあいさつだって思いやりの一つです。思いやりって、いい気持ちになるからです。あいさつだって、えがおでいい気持ちになります。それを見つけてるってことも、すてきなことです。

思いやりって、だから物だと思います。なぜなら、「まほうのような物」「えがおのたね」「みんなが持っている物」全部たから物に当てはまると思います。

思いやりって、どうしたら作れるのでしょうか。それは、「自分よりあい手の事を大切にしたり、あい手のことを思いやる。」それが思いやりの作り方だと思います。私は思いやりってすごいと思います。日本中をすてきにする、世界中をすてきにする、世の中をすてきにする、思いやり一つさえあれば、たくさんのおえを作れます。

私は、「自分より相手のことを大切にしたり、思いやる心」を持つ。そんな人になって、みんなをえがおにしたい、いい気持ちにしたいです。

◇優秀作品賞◇

身近な気付きは地域のなかに

原道小学校6年 長沼 蒼奈

私の地域では毎年、皆さんと行う避難訓練があります。

ある日曜日の朝。今年も大きな地震を想定して避難訓練を行いました。いつも、私が登校をする時に安全に横断歩道を渡らせてくれるボランティアさんや区長さん、通学路で見守ってください交通指導員さん、民生委員さんも参加しています。でも中には、普段なかなかお会いすることがない方もいて、高齢の方の中には杖をついて歩いたり、カートを支えにしたり、前回お会いした時よりも更にゆっくりと歩くようになっていました。避難状況は家族ごとに区長さんに報告するので、家族の人数、高齢の方だけで暮らしている方、お一人暮らしの方などの情報を地域の方で共有することができません。皆さんと色々な話をする事で、改めてコミュニケーションの大切さを感じました。近頃のニュースでは、隣にどんな方が住んでいるのかでさえ分からないといっ

たことも聞きますが、自分のことを知ってもらうことで、お互いが地域の中で安心して暮らせるようになる第一歩なのではないかと思いました。

そして今年の十月。台風十九号では全国的に大きな被害がありました。強風と横なぐりの雨で眠れずドキドキしていると、夜中に電話が鳴りました。区長さんです。

「避難指示が出たよ。避難場所は騎西の小学校！そうだ、裏のお家の〇〇さんは一人暮らしだったね、おじさんが一緒に避難するから大丈夫！それから、避難したら家族皆が無事か、どこに避難できたか連絡をちょうだい。」

的確な指示により、安心して避難をすることができました。

高齢者の世帯が増える今、ご近所の助け合いは必要です。私は、不安をかかえながら生活をしている方には心づかいを忘れず、そして、温かな言葉をかけられる大人になりたいです。

一人一人が安心して、この加須市でいつまでも笑顔で暮らせるために。